

# 2023

## 九州大学病院 国際医療部

### 2023 年度活動報告

発行 2024年6月  
監修 森山 智彦 / 工藤 孔梨子  
編集 松田 沙織 / 大山 明子  
制作 岡田 真由子  
事務局 〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1  
九州大学病院 国際医療部  
WEB: <https://plaza.umin.ac.jp/imed/>



海外交流センター  
TEL: 092-642-4439  
WEB: <http://plaza.umin.ac.jp/ovex/>



アジア遠隔医療開発センター  
TEL: 092-642-5014  
WEB: <https://www.temdec.med.kyushu-u.ac.jp/>



国際診療支援センター  
TEL: 092-642-4231  
WEB: <https://plaza.umin.ac.jp/ipac/>



# 九州大学病院 国際医療部

## 2023 年度活動報告

はじめに	1
ハイライト	2
トピックス	
OVEX	9
TEMDEC	10
IPAC	11
プロジェクト一覧	12
メンバー	13



九州大学病院 副院長  
国際医療部長

中島 直樹

中島 直樹

### 国際医療部は2023年度から三センターによる年度報告を出すことにしました

日本は島国ですので、海外のことは他の国々が感じるよりも遠くのこと、あるいは他人事、と考えがちです。しかし今や交通の進化によって物理的に、またインターネット的にも海外は劇的に身近なものとなって変わってきました。さらに医療においては、新薬の展開においても患者さんや医療スタッフの交流においても海外と接する機会は益々増えています。九州大学はVision2030の8つのVisionの一つに「国際協働」を、九州大学病院は基本理念の一つに、「情報技術を基盤にした国際化の推進」を掲げています。馬出病院地区には2021年に部局国際推進室が設けられ、九州大学本部の国際部に2024年度より国際教育ナビゲーションセンターが新設され、九州大学への留学や海外への留学を促進すること、国際化活動が活発化しております。国際医療部（International Medical Department, iMed）は、九州大学病院における国際化を担っている部署です。2015年に設立された国際医療部は、アジア遠隔医療開発センター（Telemedicine Development Center of Asia, TEMDEC）、国際診療支援センター（International Patient Support Center, IPAC）、そして海外交流センター（Overseas Exchange Center, OVEX）の三センターを擁し、新型コロナパンデミックの間もスタッフ一同頑張ってきました。2022年度までは、TEMDECとOVEXで年度報告書を記載しておりましたが、2023年度からは三センター合同の、つまり国際医療部としての年度報告書を発行することとなりました。特色があり、かつ相互に連携する三センターの活動について詳細に報告しておりますので、一読していただければ幸いです。国際医療部は2024年度もさらに活動を推進する心積もりです。どうぞ、これからもご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

九州大学病院 国際医療部 (iMed) 	<b>海外交流センター (OVEX)</b> 医療スタッフの派遣・受入 人材育成 
	<b>アジア遠隔医療開発センター (TEMDEC)</b> 遠隔教育 技術開発 
	<b>国際診療支援センター (IPAC)</b> 外国人患者受入 通訳・翻訳 

## 4月 仲介者を介した中国とのD to D遠隔医療相談

中国在住で胃がん肝転移疑いの高齢患者の家族に対し、血液・腫瘍・心血管内科医師2名による遠隔医療相談を実施した。治療法、副作用、手術適応など意見を述べ、異文化を考慮した上で本人への告知についてもアドバイスを提供した。患者家族は母国で治療するメリットを理解でき、高い満足度を得ることができた。仲介業者経由の遠隔医療相談は4件目で、幾つかの課題が浮上したが、より良い形で実施できるよう改善を重ねている。



## 5月 医工学学生講義でメキシコから遠隔講義

今年は3年ぶりに学生が大学の講義室に集まった。初めにメキシコの国立医学・栄養センター Dr. Miguel Tanimoto が、彼が行っている遠隔医療について講義を行い、医学生と英語で討論を行った。その後、出張先のシンガポールから森山智彦副部長が、国内外における遠隔医療教育やオンライン診療の実情について日本語で講義を行った。英語を交えた講義について、学生からは肯定的な意見が多く見られた。



## 6月 2023年度医療・デザインプロジェクト：小児外科、バングラディッシュ妊婦検診ワークショップ

本プロジェクトは2021年度より実施している。小児外科の待合室の課題については、「プライバシー空間の確保」「飽きない楽しい空間づくり」「待ち時間の見える化」「いつ呼び出されるか、ということに縛られない待ち時間づくり」などのアイデアが提案された。そして、バングラディッシュにおける妊婦検診の課題については、「妊婦や家族の妊娠にともなう体の変化やリスクへの理解」「検診の重要性の理解」「認識の向上」の観点からプロダクト、ゲーム、サービスなど様々なデザインが数多く提案され、議論された。今後、参加者はより注力したいアイデアに絞って制作を進めていく。



## 7月 パラオ共和国への遠隔内視鏡トレーニング（vTERM）が環太平洋テレヘルスリソースセンターのニュースレターに掲載

パラオの内視鏡医が行う内視鏡検査を、遠隔から参加するオーストラリアの医師が指導する活動が、2023年から開始された。前段階としてTEMDECが2022年から機材選定や機材構成に関して支援した。

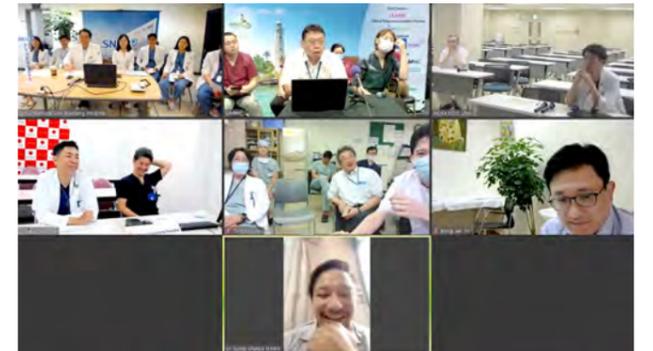
この取り組み（vTERM）は Pacific Basin Telehealth Resource Center の Newsletter に掲載された。

<https://mailchi.mp/4a1e84ec5960/pbtrc-july-2023-newsletter?e=e7b0d2768e>



## 8月 第56回アジア太平洋先端ネットワーク会議（APAN 56）がスリランカにて開催

APAN 56の医療ワーキンググループでは内視鏡、外科、眼科、医療ケア、地域医療、天然素材、ICT技術、医学教育など合計15セッションがハイブリッドで開催された。16カ国から64件のプレゼンテーションが行われ、18カ国から合計511名が参加した。



## 8月 インドネシアから4名、モンゴルから1名の技術研修者受入

電気通信普及財団2022年度国際交流人材育成援助「インドネシアの地方大学における遠隔医療技術者育成プログラム」によりインドネシアから4名、また国立研究開発法人国立国際医療研究センター（NCGM）2023年度医療技術等国際展開推進事業「モンゴル国での消化器疾患の人材育成とチーム医療の導入」によりモンゴルから1名、エンジニアを招聘し、技術者研修を行った。



## 9月 第10回九州高難度手術手技研究会

この研究会は、九州一円を結ぶ大腸の高難度手術に携わる若手外科医の技術向上と交流を目的とした会である。メタバース会場では、3回目の施行となる。国立がんセンター中央病院、長崎大学よりロボット右側結腸の手術ビデオを提示いただき、各施設の手術手技や工夫、疑問点について活発に議論を行なった。アバターによる懇親会も行い、非常に有意義かつ貴重な機会となった。



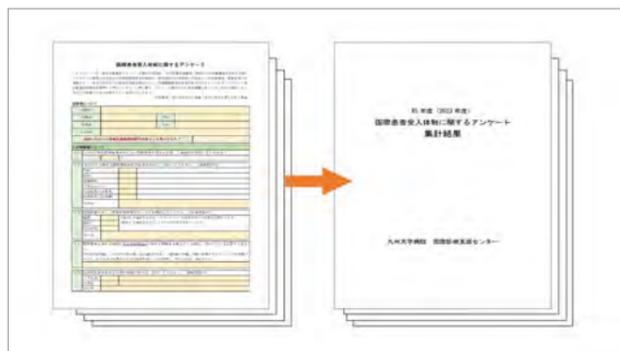
## 9月 ケニヤッタ国立病院での内視鏡技術研修

国立研究開発法人国立国際医療研究センター（NCGM）2023年度医療技術等国際展開推進事業「ケニアにおける消化器疾患診療の人材育成支援（内視鏡領域）/ オリンパス株式会社」により、森山智彦副部長を含む九州大学病院医師3名がケニアに赴き、ケニヤッタ国立病院で内視鏡指導を行った。また、この内視鏡技術研修の開会式の様子は、在ケニア日本大使館ホームページで紹介された。



## 9月 全国の医療機関に向けた「国際患者受入体制に関するアンケート調査」実施

訪日国際患者の増加を見越し、時間外や救急搬送場面等、様々な状況下での安全な医療提供と、医療機関間の連携促進を目的とし、国立大学病院、福岡市内の医療機関、外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMIP）認証医療機関の計40病院へ調査を実施した。多くの事例や対策が示され、特に地域連携において課題がみられた。本調査を足掛かりとし、全国または地域医療機関との連携の下、国際診療支援基盤の強化に取り組んでいきたい。集計結果は調査協力機関に共有している。



## 9月 中央アジア・コーカサス地域より医師を受入

アルメニア、カザフスタン、ウズベキスタン、トルクメニスタン、キルギス、ジョージア、タジキスタンから7名の医師を招聘し、国際協力機構（JICA）国別研修「早期胃癌の内視鏡診断と治療」を行った。この研修では、最新機器を用いた内視鏡診療の見学や講義、豚胃を用いたシミュレーション学習などを行った。日本式の内視鏡診療の知識や経験を積むことのできる研修となった。



## 10月 アルゼンチンより医師を長期受入

これまで3年間で16名を招聘したJICA日系社会研修員受入事業だが、3カ月の長期研修受入は今回が初となった。早期消化器癌の診断・治療方法を学び、豚胃を用いたスキルトレーニングを頻回に実施した。外国人医師臨床修練制度を利用したことで、より実践的な内視鏡診療の技術とコツを習得することができる研修となった。



## 10月 2023 南北アメリカ消化器病週間 国際症例検討会にて技術支援

2023 南北アメリカ消化器病週間（SPED 2023）において、南アメリカの4カ国（チリ、メキシコ、コスタリカ、ペルー）を接続して遠隔医療セッション（TELEMEDICINA TEMDEC-OPGE セッション）が行われ、興味深い症例を共有し、オンライン参加者によるアンケートも即時提示された。また、この会議はYouTubeでのストリーミングも行われた。



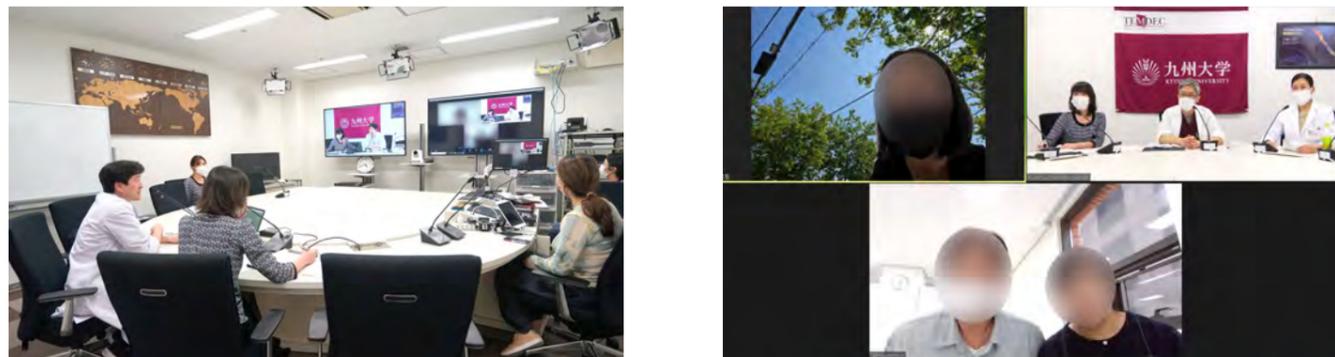
## 10月 森山智彦副部長がトルコ・アゼルバイジャン・ジョージアを訪問

JICA と協働したプロジェクト、中央アジア・コーカサス広域研修「早期胃癌の内視鏡診断と治療」を開始した。次年度のプロジェクトをより充実したものにするため、内視鏡診療の現況視察と遠隔医療教育を含めた今後の発展を議論する目的で、トルコ、アゼルバイジャン、ジョージアを訪問した。今回の訪問を通じ、この地域にはある程度、内視鏡機器が揃った施設があり、各国においてリーダーとなる医師を育成していくためにも、人材交流と遠隔医療を組み合わせた継続的な教育がより重要であることを認識した。



## 10月 韓国・オランダとの「D to P 海外遠隔医療相談」実施

これまでの D to D 遠隔医療相談に加え、当院医師と海外居住の国際患者とで行う D to P 海外遠隔医療相談の本格始動に向け、韓国とオランダの2件をトライアル形式で実施した。血液・腫瘍・心血管内科と肝臓・膵臓・胆道内科の医師がそれぞれ意見提供を行い、60分間で活発な対話と質疑応答が繰り返され、患者側参加者より高い満足度を得ることができた。患者個々の事情やニーズに応えるため、本システムの発展に努めていく。



## 11月 ケニアより医師を受入

NCGM 2023 年度医療技術等国際展開推進事業「ケニアにおける消化器疾患診療の人材育成支援（内視鏡領域）/ オリンパス株式会社」により、ケニア内視鏡医5名の本邦受入研修を実施した。最新機器を用いた内視鏡診療の見学に加え、止血練習モデルやシミュレーターを用いたスキルトレーニングを実施した。また、研修の最後には自国の施設と接続し遠隔でのカンファレンスを行った。直接的な指導と遠隔教育の両方を学ぶことができ、充実した研修となった。



## 11月 九州大学 Asia Week 2023 での技術支援

第4回目となる九州大学 Asia Week 2023 は、「アジアと出会う1週間」をテーマに開催された。この中で、「第3回医療xデザイン連携セミナー：医療とデザイン・アートの連携が切り拓く未来」を TEMDEC が主催し、「各国での PHC 活動とポータブル医療センサーの挑戦について」「第34回インドネシアとの神経内科カンファレンス」「インドネシア-日本、より良い教育のためのパートナーシップ」の各プログラムについて技術支援を行った。



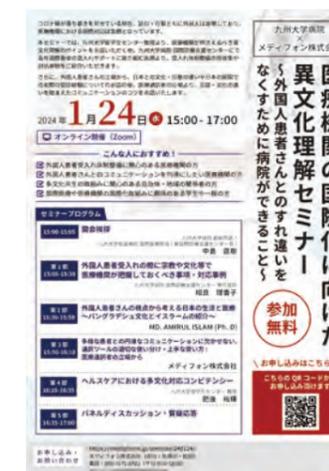
## 11月 第8回国際臨床医学会学術集会

国際診療支援センター (IPAC) から、専任医師、英語通訳、中国語通訳の3名が参加し、体制整備と医療通訳分野、また共催シンポジウムにて5つの演題発表を行った。インバウンドの劇的な増加に伴い、医療機関における院内外の連携や時間外の対応、未収対策は喫緊の課題であり、IPACにも日頃から多くの問合せが寄せられている。これら諸問題への取組みを幅広く共有できる本学会を貴重な場と捉え、積極的に参加・発表を行っている。



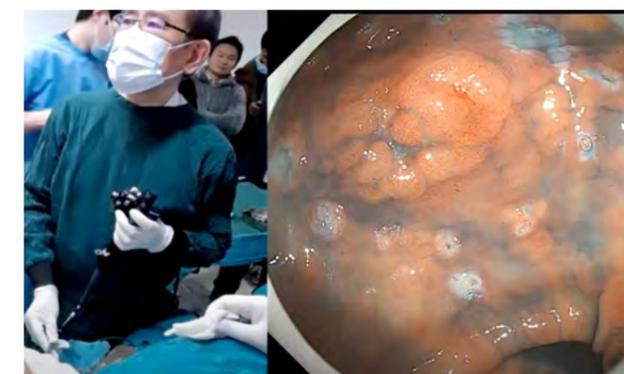
## 1月 九州大学病院 × メディフォン株式会社 「医療機関の国際化に向けた異文化理解セミナー」開催

国際患者対応にあたり、宗教や文化に関わる知識・異文化対応力が患者安全や円滑な医療提供に寄与する重要な要素と考え、本セミナーを立案、開催した。当院医師、国際患者家族、通訳事業者、九州大学教授が異なる立場から発表し、意見交換を行った。いずれの講演も高い満足度が示され、多くの医療機関が異文化対応力に強い関心を寄せていることが分かった。今後も基本的知識から実践的議論まで継続的な開催を検討している。



## 1月 第2回ブータン消化器内視鏡ワークショップ

2回目となるブータン消化器内視鏡ワークショップでは、日本人専門家の指導を受け、ブータン人医師による内視鏡的粘膜切除術 (Endoscopic mucosal resection: EMR) と内視鏡的粘膜下層はく離術 (Endoscopic submucosal dissection: ESD) が実施された。ジグミ・ドルジ・ワンチュク国立病院および国内の医療機関から13名の医師が参加した。ワークショップの開催は、ブータン人医師の内視鏡診断・治療スキルの習得に大きく貢献するだろう。



1月

## 第57回アジア太平洋先端ネットワーク会議（APAN 57）がタイにて開催

APAN 57 の医療ワーキンググループでは内視鏡、外科、眼科、医療ケア、地域医療、公衆衛生、天然素材、ICT 技術、医学教育など合計 15 セッションがハイブリッドで開催された。14 カ国から 56 件のプレゼンテーションが行われ、21 カ国から合計 362 名が参加した。



1月

## 森山智彦副部長がアルゼンチン・チリを訪問

2017 年より JICA と共同で、中南米の日系社会に貢献している医師を対象として、早期胃癌の内視鏡診断・治療の研修を実施してきた。本年度はアルゼンチンから日系内視鏡医を 3 ヶ月招聘したこともあり、研修員の勤務施設の視察と今後のアルゼンチンにおける遠隔医療教育の導入へ向け、首都ブエノスアイレスを訪問した。また、現在進行中の遠隔医療教育プロジェクトのさらなる発展のため、復路途中でチリ共和国首都のサンティアゴも訪問した。今回の南米渡航で同地域の状況を再確認すると同時に、地域や施設のニーズに合わせた遠隔医療教育を提供していく必要があることを強く感じた。



3月

## 第7回医系地区国際化フォーラムの開催

2024 年 3 月 22 日、医系地区各部局（病院・医学研究院・保健学部門・歯学研究院・薬学研究院）が国際交流の現状や課題を発表した。特別講演では九州大学国際部の佐渡島俊介氏よりストックホルム・リエゾンオフィスを活用した九州大学の欧州展開についての活動報告がなされた。更なる国際化推進に向けて情報交換のできる良い機会となった。



## NCGM 2023 年度 医療技術等国際展開推進事業 モンゴル国での消化器疾患の人材育成とチーム医療の導入

昨年度に引き続き国立国際医療研究センターにより採択された本事業では、チーム医療の有用性と重要性について認知・理解の向上を計るため、医療スタッフの派遣や受入による直接的な医療指導と臨床現場やオンラインでの医療教育を実施した。合わせて、自国で遠隔医療教育を自発的に行うための技術者養成も実施した。

8月

- 九州大学病院から医師 8 名（内視鏡、外科、放射線、病理、腫瘍内科）と臨床工学技士 1 名を派遣
- モンゴルからのライブ手術の実施
- TEMDEC 日本-モンゴルウェビナーの実施
- モンゴルから医師 4 名（外科、放射線、病理、腫瘍内科）とエンジニア 1 名を受入
- オンライン研修報告会の実施

11月

- TEMDEC 日本-モンゴルウェビナーの実施：日本における高度消化器外科手術

12月

- モンゴルから医師 7 名（内視鏡、外科）を受入
- オンラインでの症例検討会と研修報告会の実施

3月

- モンゴル国立医科大学学長と日本モンゴル病院病院長が九州大学を訪問



## 海外交流センター 2023年度報告

受入

研修

25 カ国 45 施設  
計 60 名

医師 49 名  
技術者 5 名  
学生 6 名

病院見学  
21 名

派遣

技術指導 / 施設訪問

9 カ国 19 施設  
計 31 名

医師 20 名  
研究者 2 名  
臨床工学技士 1 名  
技術者 1 名  
事務 3 名  
学生 4 名

英語研修

九州大学病院教職員のためのオンライン英語研修を実施

●個別クラス：  
4 種類 8 クラス 44 名

●部署別クラス：  
3 部署（整形外科、口腔外科、麻酔科蘇生科） 15 名

第17回 アジア遠隔医療シンポジウム

今年のアジア遠隔医療シンポジウムは5年ぶりに九州大学病院で開催された。アジアを中心に世界各国の遠隔医療の活動報告や、遠隔医療の研究や研修についての報告のほか、特別セッションとして日本における遠隔医療や、将来的な活用が期待される技術についてのセッションが実施された。世界12か国の多様な医療分野における演者から優れた発表がなされ、それぞれの発表の後には活発な質疑や意見交換が行われた。また、会の終了後には会場で懇親会も実施された。オンラインはもちろん、現地にも多くの参加があり、これまでコロナ禍で会うことが難しかった様々な国の医師、技術者、研究者、スタッフが一堂に会す貴重な機会となった。3日間で累計32カ国128名が参加した。



会場でのグループ写真



シンポジウムポスター



12カ国42名の演者



講演の様子



エンジニアワークショップの様子

44カ国 353施設 173イベント  
新規接続 133施設 29カ国

内視鏡	外科	移植	テクノロジー	胆膵
眼科	ロボット	遠隔医療	神経内科	歯科
東洋医学	腫瘍学	小児	保健	小児外科
精神科	一般内科	ナース	感染症	脳外科
学生	消化器内科	内分泌	血液	腎臓内科
高度腹腔鏡手術	産科婦人科	その他(医療)	その他(医療以外)	

2023年度2月 海外遠隔医療相談 本格始動  
— 国際診療支援センター (IPAC) ホームページに専用窓口開設! —

今年度2月1日、当院医師と海外在住の国際患者とで行う Doctor to Patient (D to P) 海外遠隔医療相談の運用を本格的に開始した。コロナ禍で来日できない、病態により渡航が困難である等、様々な相談を受けこれまでトライアル形式で3件のD to Pを実施してきたが、これら不測の事態や患者のニーズに応える形での実現となった。

IPACホームページに海外遠隔医療相談専用の案内ページを日英中の3カ国語で設けることで、渡航受診との棲み分けを明確にし、申請者にとってアクセスしやすい窓口を目指している。



IPAC 紹介動画 YouTube で一般公開開始

タイのマヒドン大学医学部にてデザインを学ぶ学生4名と、IPAC 紹介動画を作成。通訳、翻訳、受入相談、海外遠隔医療相談の取組みを3分程度で紹介している。動画はIPACのYouTubeアカウントに掲載しており、IPAC ホームページでも公開中。



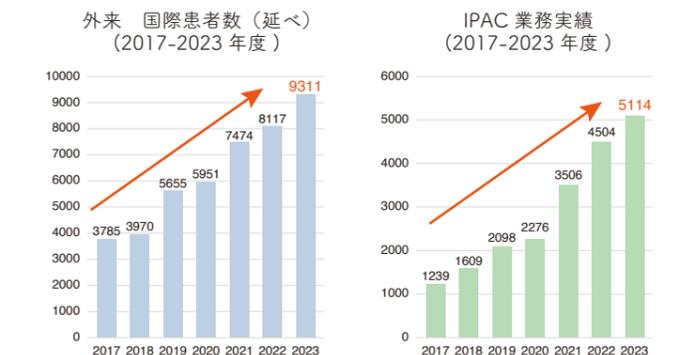
「国立大学病院国際医療連携ネットワーク」相談件数 大幅増加

本ネットワークは渡航受診を希望する国際患者の受入れ相談窓口となっており、IPAC が事務局を務め、例年100件程度の相談に対応している。2020年度以降、COVID-19の影響で激減していたが、今年度11月から劇的に増加、合計114件と2019年度ピーク時を超え、当院受入率においても例年をやや上回る結果となった。訪日外客数全体の増加に比例し、相談件数の更なる増加が予測される。



国際患者増加と国際診療支援センター (IPAC) の業務件数

国際患者数とIPACの業務件数は密接に結びついており、年々著しく増加している。業務内容は、通訳、翻訳、受入相談(遠隔医療相談含む)、体制整備で構成され、体制整備は統計から未収対策まで、国際患者に係る幅広い業務を指す。受け皿としての安全管理等診療科からの要望も多く、今後、九州大学病院内外連携の更なる推進や人員やツールの強化等、円滑な業務運営のための対策が必要である。



外部獲得資金による研究プロジェクト

◆一般財団法人 日本医療教育財団
令和5年度 医療通訳者、外国人患者受入れ医療コーディネーター配置等支援事業
医療通訳配置等間接補助事業
中村 雅史

◆総務省
ICT 海外展開パッケージ支援事業の地方枠に関する再委託事業におけるザンビアでの SPAQ 実証事業を通じてデジタルソリューションおよび製品の現地導入における医療的評価研究：2023
中島直樹

◆医療技術等国際展開推進事業 (NCGM): 2023
モンゴル国での消化器疾患の人材育成とチーム医療の導入
九州大学 (森山 智彦)

◆独立行政法人 国際協力機構
2023年度 国別研修 中央アジア・コーカサス広域研修「早期胃癌の内視鏡診断と治療」
森山 智彦

◆独立行政法人 国際協力機構
2023年度 日系社会研修員受入事業「早期胃癌の内視鏡診断と治療」
森山 智彦

◆科学研究費基盤 (C) 2020-2022 JP20K10321
アジアにおける大腸癌死亡率低下を目指した持続可能な国際遠隔医療教育
森山 智彦

◆公益財団法人 内視鏡医学研究振興財団
令和5年度 海外研究医受け入れ助成
仲田 興平

◆科学研究費基盤 (B) 2023-2026 JP23H01005
アジアにおける遠隔医療教育のためのeラーニング技術研修プログラムの開発と実証
工藤 孔梨子

学内研究プロジェクト

◆九州大学 アジア・オセアニア研究教育機構 (Q-AOS)
医療・健康クラスター 遠隔医療モジュール
森山智彦 (工藤孔梨子)

医療・健康クラスター PHC モジュール
中島直樹

医療・健康クラスター ストラテジックメディカルデザインモジュール
平井康之 (工藤孔梨子)

◆科学研究費挑戦的研究 (萌芽) 2023-2025 JP23K17621
医療とデザインを融合した創造的教育プログラムの開発と実証
工藤 孔梨子

◆科学研究費基盤 (C) 2022-2024 JP22K02858
拡大内視鏡を用いた精緻な早期胃癌診断を世界に普及するための画像品質基準策定
上田 真太郎

◆電気通信普及財団 2022年度国際交流人材育成援助 インドネシアの地方大学における遠隔医療技術者育成プログラム
富松 俊太

◆医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業 (地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム SATREPS) : 2021-
ピロリ菌感染症関連死撲滅に向けた中核拠点形成事業
山岡 吉生 (森山 智彦)

◆医療技術等国際展開推進事業 (NCGM): 2023
ブータン王国における内視鏡を用いた消化器疾患の早期診断と治療
大分大学 (森山 智彦)

◆医療技術等国際展開推進事業 (NCGM): 2023
ラオスにおける胃癌撲滅のための消化器専門医の育成
NPO 法人 胃癌を撲滅する会 (HIGAN) (森山 智彦)

◆医療技術等国際展開推進事業 (NCGM): 2023
ケニアにおける消化器疾患診療の人材育成支援 (内視鏡領域)
オリンパス株式会社 (森山 智彦)

◆科学研究費挑戦的研究 (萌芽) 2021-2023 JP21K18462
持続可能な医療体制にむけた医療職の多様な働き方に関する国際的調査研究への展開
櫻木 晶子 (工藤 孔梨子)

◆Qdai-jump Research Program (QR プログラム) : 2020.10-2024.3
医療とデザインを融合した未来社会のための教育プログラムの開発
工藤 孔梨子

◆九州大学 未来社会デザイン統括本部
医療・健康ユニット
赤司 浩一 (森山 智彦) (工藤 孔梨子)

◆九州大学 データ駆動イノベーション推進本部
健康医療 DX 推進部門
中島 直樹 (森山 智彦) (工藤 孔梨子)

iMed



iMed 部長
中島 直樹
教授
副病院長
IPAC センター長



iMed 副部長
森山 智彦
准教授
OVEX センター長
TEMDEC センター長



岩村 美智子
総務課 国際担当

OVEX



OVEX センター長
仲田 興平
准教授
光学医療診療部



OVEX 副センター長
森山 智彦
准教授
iMed 副部長
TEMDEC センター長



永吉 絹子
助教
臨床・腫瘍外科



田尻 姿穂 (~2024/3)
医員
顔面口腔外科



畑中 直子 (2023/5~)
国際コーディネーター



森 由美
国際コーディネーター



中村 みち子
事務補佐員

TEMDEC



TEMDEC センター長
森山 智彦
准教授
iMed 副部長
OVEX 副センター長



TEMDEC 副センター長
工藤 孔梨子
講師



永吉 絹子
助教
臨床・腫瘍外科



上田 真太郎
特任講師



久田 由紀子
特任助教



松田 沙織
エンジニア



幸松 正浩 (~2023/9)
国際コーディネーター



早田 美帆 (~2023/12)
国際コーディネーター



長峰 史子 (2023/9~)
国際コーディネーター



和久井 尚子 (2023/9~)
国際コーディネーター



森 由美
国際コーディネーター



岡田 真由子
エンジニア



片山 林太郎
エンジニア



大山 明子
事務補佐員



道面 美紀 (~2024/3)
事務補佐員

IPAC



IPAC センター長
中島 直樹
教授
副病院長
iMed 部長



IPAC 副センター長
下野 信行
教授
総合診療科



相良 理香子
専任医師



祁 潔
中国語医療通訳



有田 奈未
英語医療通訳